

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：飯田市

1. 事業の概要

事業名称	飯田市 地域との協働による日本語教育推進事業
事業の目的	平成27年度までの日本語教室の活動から見てきた地域の実情と課題、ニーズなどに寄り添った日本語教室を開催し、外国人の自立促進と地域課題解消への一助とする。これまで築いてきた関係機関等との連携を継続、更に強化するとともに、一般市民との関わりをこれまでより多く持てるような内容に組み立てる。教室に参加する学習者が、実践的な日本語を学ぶことはもちろん、地域住民と一緒に、なって日本文化や地域のことを学ぶことで、住民のひとりとしての自覚を持ち、社会へ踏み出していく足がかりとする。地域住民主体の“学習と交流の場”としての公民館を拠点にし、教室の様子や成果等を随時SNS等を利用して広く一般に発信することで、地域住民と外国人が共に主体となる地域日本語教育推進のための体制整備を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	飯田市には総人口104,233人に対し、2,097人（比率2.01%）の外国人住民が暮らしている（平成27年12月末現在）。これまで外国人住民のほとんどは、中国、フィリピン、ブラジルの出身者であったが、最近ではベトナムからの技能実習生などアジア諸国の出身者が微増しており、定住・永住化と併せて、多様化する外国人住民への対応が求められている。特に、外国にルーツを持つ若者は、来日時の年齢や親の経済力、働き方、教育に対する考え方等の事情により、よりよい就職や進学がかなわないといった現状もある。彼らの居場所づくりを行ったり、それぞれのニーズに合った日本語の習得を援助することで、多様な背景を持った若者の可能性を地域の活力としていかすことが望まれる。 日本語教育活動については、公民館、民間団体、中国帰国者支援関係の団体が主催するボランティア日本語教室が4か所あり、それぞれ20年近く活動している。指導する日本語ボランティアの高齢化と後継者不足、指導力向上の機会の少なさ、教室活動のマンネリ化等も課題として存在する。大学、日本語学校等の専門機関はないが、平成21年より厚労省の外国人就労・定着支援研修が毎年開講されている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」の実施 平成27年度に引き続き、日本語教室「わいわいサロンⅡ」を鼎・松尾の2箇所で開催する。会場は鼎公民館と松尾公民館とし、その地域に住む外国人成人を主な学習対象とする。松尾公民館は外国人集住地区の常盤台団地を抱える地区にある公民館ともなっている。 学習内容は生活に必要な実践的な日本語とともに、地域の文化や産業、生活情報などについて学べるものとする。地域の関係者や団体を教室へ迎えたり、学習者が現地へ出向いての実践練習をすることなどを取り入れることで、地域との連携をはかり、外国人が地域社会へ踏み出していく足がかりとする。 松尾公民館教室については、初・中級の学習者を対象とし、話す・聞くに加えて、読む・書くを多めにとり入れた学習内容とする。定住者、永住者が増加し、外国人に求められる日本語能力が多様化している現状にも対応できるといい。扱うテーマや教材は平成25年度から参加していただいている日本語支援者を中心に企画会議で検討する。 ◆日本語講座「多文化な若者たちと考えるわたしの未来・飯田の未来」の実施 外国に由来する若者（15歳くらいから20代後半くらい）や、日本人の若者が集い、日本語で語り合い学習し合う講座を開催する。多様な背景を持った若者が、自身のアイデンティティを肯定し、未来を見て夢を語れる場となること期待する。 通年で10回程度。次代を担うひとりとして、その可能性を地域の活力にできるような体制整備を目指す。 講座内容、進め方については、最初の数回分は外国ルーツの方、日本人、大学・短大等の専門的教育機関を交えた企画会議で設定するが、途中からは集まったメンバーで学習したいこと、挑戦してみたいことなどについて、話し合うプロセスを通して決めていく。また、必要に応じて地域で活躍している方、若者が興味がある分野の方等をゲスト講師として迎える。 ◆学習成果発表会の実施 27年度には日本語教室の存在を外国人も含めた地域の方々に広く知っていただくために、市内で開催している他の日本語教室とも連携してのイベントを開催した。28年度は更に教室での学習内容を地域に深く知ってもらうための成果発表会を開催する。日本語スピーチ、パネルディスカッション、ビデオ作品上映、作品展示など、学習の成果を発表する場があれば、学習者にはそれに向けてのモチベーションを高める効果が期待でき、地域には教室活動を周知できる機会にもつながる。 開催にあたっては、わいわいサロンの日本語支援者、他の日本語教室関係者、外国人キーパーソン等で構成される実行委員会を組織し、企画会議を実施。当日の運営には、日本人支援者にも関わってもらい、その後の継続開催につながるような体制作りも模索したい。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年2月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター
2	樫野 武司	竜丘公民館日本語教室
3	秦 文映	松尾常盤台日本語教室
4	吉澤 裕美子	ハンドインハンド和楽(日本語教室)
5	大澤 志那子	飯田市公民館日本語教室
6	林 みどり	飯田市男女共同参画課
7	湯澤 ちふ美	飯田市公民館



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月4日 (土) 13:00～16:00	3時間	飯田市公民館	①春原直美②樫野武司 ③秦文映④林みどり ⑤大澤志那子⑥木下巨一 ⑦氏原理恵子⑧湯澤ちふ美	1. 平成28年度文化庁委託事業について 2. 長野県内の多文化共生に関する取組について 3. 市内日本語教室情報交換
2	平成28年9月17日 (土) 13:00～16:00	3時間	飯田市公民館	①春原直美②秦文映 ③林みどり④大澤志那子 ⑤湯澤ちふ美	1. 事業の進捗状況について 2. 文化庁日本語大会報告 3. 長野県内の多文化共生に関する取組について 4. 市内日本語教室情報交換
3	平成28年12月17日 (土) 13:00～16:00	3時間	飯田市公民館	①春原直美②樫野武司 ③秦文映④吉澤裕美子 ⑤林みどり⑥大澤志那子 ⑦湯澤ちふ美	1. 事業の進捗状況について 2. 日本語教室成果発表会について 3. 長野県内の多文化共生に関する取組について 4. 市内日本語教室情報交換
4	平成29年2月18日 (土) 13:00～16:00	3時間	飯田市公民館	①春原直美②樫野武司 ③秦文映④林みどり ⑤大澤志那子⑥湯澤ちふ美	1. 平成28年度文化庁事業のまとめ、検証 2. 平成29年度事業予定について 3. 平成29年度長野県内の多文化共生に関する取組の予定

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」 平成24年度から築いた各機関(市役所、自治会、地域の伝統行事保存会、病院等)との連携を継続し、各機関からの要望なども学習テーマに反映させる。また地域で活躍する一般市民等、新たな分野との連携を図る。 ◆日本語講座「多文化な若者たちと考えるわたしの未来・飯田の未来」 飯田OIDE高等学校定時制、大学、短大等の教育機関と連携し、人材の発掘、講座内容の検討をする。 ◆学習成果発表会 飯田国際交流推進協会をはじめ、他の日本語教室、外国人住民の団体やキーパーソンなどから実行委員会を組織し、企画・運営を行う。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」 各会場が始まる前に、コーディネーター(大澤)が指導者二人を含む日本語支援者を招集し、学習テーマの企画会議を行う。会議の中で、学習テーマの大枠を決め、詳細(タイトル、学習目標など)はコーディネーターが詰める。コーディネーター及び指導者2人(服部、下岡)で担当回を振り分け、各自担当回の教案を作成し、担当回のファシリテーターを務める。ファシリテーターをしない指導者が教室に参加する場合は、他の日本語支援者と同様、学習者の会話パートナーとして参加する。外部から講師やゲストを迎える場合は、主にコーディネーターが打ち合わせ等を行う。必要に応じて指導者二人も参加する。 ◆日本語講座「多文化な若者たちと考えるわたしの未来・飯田の未来」 コーディネーター(大澤)及び指導者二人(服部・下岡)が、助言者(大学、短大教授他)と企画会議をもち、講座内容、進め方等検討する。初回～第3回くらいまでの計画立案。参加者募集後開講。講座の進行はコーディネーターか指導者が務める。講座の中では、参加者が興味があること、やってみたいことなどを語れるものにし、その中での意見を取り入れて、中盤、後半の講座内容を検討する。ゲスト講師などを迎える場合は、コーディネーターもしくは指導者が事前に講師と打ち合わせを行う。必要であれば教材も作成する。 ◆学習成果発表会 指導者二人を含む市内各教室の中心メンバーなどからなる実行委員会を組織する。数回企画会議を開催し、当日の運営も行う。 ◆上記取り組みのすべてにおいて、事業担当者(湯澤)が、関係者の連絡調整、学習者募集等の広報、教室の運営補助、各種事務処理等を担当する。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		日本語教室「わいわいサロンⅡ」							
	取組の目標		・同じ地域で暮らす外国人と日本人が出会い、交流する場とする。学習者はより実践的な日本語会話や読み書きを学び、地域で自立して生活していく。日本語支援者は、活動を通しての自己実現の場とする。 ・教室の運営にあたり、関係機関との連携を深め、地域での日本語教育の重要性を発信する。また、今後の当市での日本語教育の中心的存在となる。							
	取組の内容		・外国人の成人を対象とした、実践的な日本語や日本文化、生活情報などについて学ぶ教室を開設する。 ・平成27年度の開催地を継続し、県地区及び松尾地区の2箇所、それぞれ前期・後期の2回ずつの開講とする。 ・対話型学習を中心とし、県地区では初級レベル、松尾地区では初中級レベルを対象とする。松尾地区では、ビデオ作品制作なども取り入れ、読む・書くの技能向上を図る。 ・学習テーマについては、日本語支援者で構成される企画会議を開き、企画・検討し、必要があれば教材等も作成する。 ・学習テーマによっては、関係機関や地域で活躍する一般市民の方に教室に参加していただいたり、現場へ受講者が向いたりして、より実践的な日本語を学べる教室とする。							
		空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		行政、病院、消防署等の各機関とは、これまでたびたび連携し、活動してきた。そのつながりは継続しつつ、地場産業に携わる地域の方々などの新しい連携先を開拓し、協力できる体制をつくる。受講者が地域住民であることを自覚し、地域を担う一員として社会へ踏み出す為の足がかりとする。また、その分野の方々の意識改革にもつながると考える。							
	取組による日本語能力の向上		・日常生活に必要な場面での実践的な日本語会話の習得。 ・地域社会で知っておかなければならない生活情報の獲得。 ・自らについて日本語で語るための表現力、文章作成力の養成。							
	参加対象者		日本語を学びたい成人				参加者数 (内 外国人数)		64人 (37人) ※のべではない登録数	
	広報及び募集方法		チラシ配布(外国人集住地区、企業、市内地区公民館・日本語教室・小中学校・幼稚園保育園 等)、市広報・新聞・地方情報誌への掲載、インターネット(市役所HP、Facebook)、学習者による口コミ							
	開催時間数		総時間 54 時間							
	主な連携・協働先		市内公民館、企業、市役所、 等							
	開催場所		県公民館、松尾公民館、天恵製菓							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			17	0	0	0	2	0	1	17
			日本(27人)							
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
県教室(前期) お菓子×日本語+飯田										
1	平成28年6月20日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	16	お菓子トーク	自己紹介、オリエンテーションのあと、小グループでお菓子についてフリートーク。支援者はキーワードを付箋に書き、ポスター紙に貼った。好きなお菓子や各国のお菓子について話し、どのグループも盛り上がった。付箋をはったポスター紙を他グループと交換し、話し合いの共有をした。		①大澤志那子	①市瀬弘子* ②木下弘子 ③塩澤清夏* ④篠田初美 ⑤山崎ルミ ⑥横山燈里 *研修期間謝金なし	
2	平成28年6月27日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	14	和菓子とお茶	講師のお点前の流れを全体で見学した。その後グループに分かれ、講師の指導をいただきながら、個々にお茶を点てお菓子をいただく体験をした。お茶とお菓子の関係についても解説いただいた。初めてだが美味しいという感想が多く聞かれた。		①松沢時夫 ②松下邑子 (猿庫の泉保存会)	①市瀬弘子* ②木下弘子 ③塩澤清夏* ④篠田初美 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ ⑦横山燈里 ⑧大澤志那子 *研修期間謝金なし	
3	平成28年7月4日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	15	和菓子を作ってみよう	わらびもち作りに挑戦。工程は難しいが、火にかけ練るのに時間と労力がかかり、大変な作業もあったが、グループごと、楽しく進められた。講師による和菓子のデモンstrーションもあり、貴重な体験ができた。		①大澤志那子 ②清水雄貴 (はと錦)	①市瀬弘子* ②木下弘子 ③塩澤清夏* ④篠田初美 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ ⑦横山燈里 *研修期間謝金なし	

4	平成28年7月11日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	11	研修旅行の計画	次週に計画されている研修旅行の計画を立てた。交通手段や集合場所の確認、見学する工場の概要、工場見学後の行動計画などを話し合い、必要事項を確認した。やりたいことや行きたいところについて、各グループ活発な話し合いができた。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③塩澤清夏 ④篠田初美 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ ⑦横山燈里
5	平成28年7月23日 (月) 10:00～12:00	2	天恵製菓	12	研修旅行 「お菓子工場に行ってみよう」	午前中、豊丘村の天恵製菓さんを見学。昼食後は希望者で先日講師としてお世話になった猿庫の泉保存会の皆さんの野点へ参加。工場見学はより詳しく地場産業を知ることができ、大変好評を博した。	①代田順久 (天恵製菓)	①木下弘子 ②向山敦子 ③山崎ルミ ④横山燈里 ⑤大澤志那子
6	平成28年7月25日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	10	お菓子のデザイン	グループごとに、オリジナルの和菓子をデザインしてみようということで、材料やカタチについてアイディアを出し合った。出来たものに名前をつけ、絵などにまとめて、最終的には1グループずつ前へ出てプレゼン。アイディアだけに留めておくのは惜しいような力作ばかりがそろった。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③塩澤清夏 ④向山敦子 ⑤山崎ルミ ⑥横山燈里
県教室(後期) 秋いろいろと日本語								
7	平成28年10月17日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	7	【芸術の秋】 初回オリエンテーション・ 飯田の水引について知ろう	開講式、オリエンテーションに続き、グループで「〇〇の秋」についてフリートーク。キーワードは付箋に書いてはり、ふりかえりに使用した。また、飯田の伝統工芸である水引について、歴史や用途などについて簡単に学習した。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③篠田初美 ④下岡恭子 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ
8	平成28年10月24日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	7	【芸術の秋】 水引に挑戦！	飯田水引協働組合の方をお迎えし、その指導の下、水引細工体験。あわじ結び、梅の花などを作り、台紙につけたしおりなどを製作。色遣いなど個性あふれる作品ができた。	①田中利幸 (飯田水引協同組合)	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③山崎ルミ ④大澤志那子
9	平成28年10月31日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	7	【食欲の秋】 秋の食材でメニューを考えてみよう	導入に秋の食べ物について話してから、グループごとに「作って食べたい秋ご飯」のメニューを考え、発表されたメニューの中から実際に次回調理するものを決定。かぼちゃピザ、きのこコン汁、ココアプリンが3品となった。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③篠田初美 ④下岡恭子 ⑤山崎ルミ ⑥横山燈里
10	平成28年11月13日 (日) 10:00～12:00	2	風越山	17	【課外授業】 風越山に登ってみよう	飯田のシンボル「かざこしやま」登山。いつも見ているが登ったことがなかった人が大半。天気にも恵まれ、紅葉を満喫しながら登山を楽しめた。参加者も予想以上の人数となった。	①山下守弘 (風越山を愛する会)	①向山敦子 ②横山燈里 ③大澤志那子
11	平成28年11月14日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	7	【食欲の秋】 「秋のごはん」を作ってみよう	調理実習。かぼちゃピザ、きのこコン汁、ココアプリンの3品を3つのグループにわけて調理し試食。日本人も外国人も協力して手際よく動いていた。どれも美味しかった。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③篠田初美 ④下岡恭子 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ
12	平成28年11月21日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	6	【読書の秋】 日本語の本を読んでみよう	レベル別日本語多読ライブラリーのレベル0～レベル4の中から好きなものを選んで個々に読んだ。その後、読んだ本について、個別に再話をしてもらい、次に、グループでも再話をしてもらった。日本語の本を1冊自力で読みきることができる満足感を味わってもらえたようだ。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③下岡恭子 ④山崎ルミ
13	平成28年11月28日 (月) 19:00～21:00	2	県公民館	5	【芸術の秋】 書道に挑戦	書道に挑戦した。学習者は全員初体験。筆の扱いに戸惑いは見られたが、最後には好きな言葉を書き上げ、多くの作品ができあがった。	①大澤志那子	①市瀬弘子 ②木下弘子 ③下岡恭子 ④山崎ルミ
松尾教室(前期) フォトムービー作品を作ってみよう「飯田に暮らして…」								
14	平成28年7月20日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	自分を知る・相手を知る	ネームチェン、30秒トーク等のアイスブレイクの後、2つのグループに分かれて「飯田に暮らして」をテーマにフリートーク。参加者が飯田で生活していて感じていることについて様々な角度(仕事、子育て、環境、趣味、家族、など)から意見交換した。日本人支援者がキーワードを付箋に書き出し、話したことの視覚化を図った。フリートークのふりかえりで、学習者個々が伝えたいテーマを探った。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④横山燈里

15	平成28年7月27日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	マインドマップを作る	自己紹介ゲームのあと、オンラインのDST作品を鑑賞し、これから作成するもののイメージをつかむ。支援者一学習者がペアになり、それぞれの伝えたいテーマについてのマインドマップを作成した。	①服部珠予	①後藤信義 ②八木孝子 ③山崎りえ子 ④横山燈里 ⑤大澤志那子
16	平成28年8月3日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	短い文を書く	単文で話す30秒トークのあと、ペアワーク。マインドマップをもとに、各自の「できごと」について、多くの単文をつくり書く作業。ほとんどの学習者が、自力でかなで書いている。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④山崎りえ子 ⑤横山燈里
17	平成28年8月10日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	4	原稿を作成する	少し丁寧に話す(です、ます)ペアトークのあと、前回の続きから作業を開始。文作成が終わった人から、全体の流れや順番等作文の構成を考えた。個々の進度に合わせ、できる人は、作文した短い文に肉付けをしたりして、原稿として文章をかたちにしていく作業に入った。	①横山燈里	①後藤信義 ②山崎りえ子 ③大澤志那子
18	平成28年8月17日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	原稿を作成、完成させよう	全体でのフリートーク(お盆はどうだったか)のあと、ペアに分かれての原稿作成作業。できる人は使用する写真についても考えていった。	①大澤志那子	①服部珠予 ②八木孝子 ③山崎りえ子 ④横山燈里
19	平成28年8月24日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	フォトムービーのナレーション録音しよう	これまでの学習についてどうだったか小グループで話した後、原稿作成作業へ。原稿を仕上げ、読む練習をして、録音できる人は録音した。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④山崎りえ子 ⑤横山燈里
20	平成28年8月31日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	5	フォトムービーのナレーション録音しよう	最終回。録音し、まとめの会を行った。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④横山燈里
松尾教室(後期) フォトムービー作品を作ってみよう「わたしの好きな○○…」								
21	平成28年12月7日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	5	私が好きな○○を探す	初回のオリエンテーションとアイスブレイクのあと、フォトムービー作品のテーマを探るためのグルーブトーク。「私が好きな○○」として、好きな場所、事、人、ものなどについて話した。前期からの継続学習者が3名。「またやりたい」と意欲的。	①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④山崎りえ子
22	平成28年12月14日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	7	マインドマップを作る	自己紹介ゲームのあと、マインドマップの作成。支援者と学習者がペアで個別に作業をすすめた。前回だいたいわかったテーマについて作文する前段階で、材料集めとその整理。話したことを紙に言葉にして書いていくのは簡単ではないが、支援者が横についているため、進められる。	①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④八木孝子 ⑤山崎りえ子 ⑥市瀬弘子
23	平成28年12月21日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	5	短い文を書く	全体でのトークのあと、ペアでの作業。マインドマップを完成させ、各項目について短文をたくさん書いた。各自言いたいことや全体像のイメージができたようだった。写真についてもアナウンス。	①大澤志那子	①後藤信義 ②八木孝子 ③市瀬弘子
24	平成28年1月11日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	5	原稿を作成する	正月最初の回ということで、犬棒カルタで遊んだあと、ペアでの作業。前回書いた短文を整理していった。進度に個人差ができてしまったが仕方ないことで、支援者が個別に対応していくことで克服できている。	①大澤志那子	①下岡恭子 ②服部珠予 ③市瀬弘子
25	平成28年1月18日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	7	原稿を作成する	勉強することについての感想などを話し合ったあと、ペア作業。原稿のカタチにしていく。文をつなげたり、不足している情報を補ったりして、まとまりのある作文にすることはなかなか大変だが、学習者は皆とても熱心。家庭で学習している人もいる。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④市瀬弘子
26	平成28年1月25日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	7	原稿を作成、完成させよう	学習成果発表会の進め方について話してからペアでの作業。原稿を完成させ、次週の録音に向けて読む練習。早い人は試験的に録音した。残り時間がわずかになって、焦りが見られる学習者もいたが、支援者のみなさんの熱心な指導に助けられ、落ち着いて進められている。	①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④八木孝子
27	平成28年2月1日 (水) 19:00～21:00	2	松尾公民館	6	フォトムービーのナレーション録音しよう	ナレーションの録音。別室で一人ずつ録音していく。一気に間違えずにはなかなか読めず、何度も区切った録音となり、時間もかかってしまった。編集は公民館で対応。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③八木孝子 ④市瀬弘子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第6回 28年6月20日(月)】

「お菓子×日本語+飯田」の最終回として、オリジナルの和菓子をデザインしてみようという回。

参加者は3、4人ずつ4つのグループに分かれてすわり、これまでの学習を簡単に振り返った。その後、本日やることについて説明し、話し合いのときに使えるフレーズを少し練習したあと、グループ毎の話し合いに入った。それぞれ、オリジナル和菓子のコンセプト(季節、食べる人、こだわりなど)について話しグループで同意したことは、シートへ記入した。具体的なお菓子のデザインは、作り方や作業工程は考えず、材料、カタチ、味についての自由なデザインを話し合った。ワークシートに絵や工作などで見た目にもわかるものを残してもらい、お菓子の名称も考えて、最終的には各グループの作品について発表した。どのグループも、これまでの和菓子作り体験、工場見学、茶道体験などから得たものを参考にし、また出身国の食材なども取り入れながら、ユニークなお菓子のデザインが出来上がった。



○取組事例②

【第24回 29年1月11日】

フォトムービー制作の4回目。新年初回ということで、犬棒カルタをウォームアップにやってみた。カルタ自体をほとんどやったことがないという学習者には、新鮮な遊びだったよう。諺などの意味はわからなくても、ひらがなで取れるため盛り上がった。そしていろいろな諺の意味もやはり知りたいということで、取り札のイラストなどを見ながら話した。熱心にほとんどメモをした中国人学習者もいた。充分なウォームアップのあと、学習者と支援者がペアとなり、フォトムービー用ナレーション原稿の作文作業を開始。主に、マインドマップの各項目について、短文を作文していく作業。マインドマップの内容をもとに支援者と会話をし、今話したことをじゃあ文にしてみよう、といった形で進めていった。各ペアごと個別に進めているが、学習者それぞれの進捗にも差が出てきている。50分ほどのペア作業のあと、それぞれに本日の作業の振り返りをして、学習者には作文した中から一文を選んで発表してもらった。学習記録を書き、次回の予告をして授業終了。



(2) 目標の達成状況・成果

・鼎教室では当地域に密着した学習テーマを設定した(1回～6回の「お菓子」、10回の「風越山登山」など)ことで、参加者が地域について学ぶ良い機会となった。和菓子職人から直接話をきいたり、普段見慣れている山に初めて登ったりすることで、新たな発見をし、自分が暮らしている地域に目を向けるきっかけとなったのではないだろうか。また、お菓子がテーマだった講座には、これまで日本語教室等では顔を見なかったような新たな学習者も獲得できたことも成果の一つと言える。口頭できいた学習者からの参加理由には、「(テーマが)お菓子だったから」という人も多く、「おもしろそう」と思わせるようなテーマ設定の柔軟性が不可欠だろう。

・松尾教室では、前期・後期ともに、DST(デジタルストーリーテリング)の手法を取り入れた、フォトムービー作品制作を学習の柱とした。昨年度後半に行った、1枚の写真について語る短い作品作りの経験を基に、写真を10～20枚ほど使用した5分前後のムービーづくりを試みた。大半は支援者とペアになり、原稿を作文する個別作業となったが、その過程では、日本語レベルの個人差はあるものの、学習者の総合的な日本語の技能の向上が見られた。日本語力だけでなく、作品が完成していくことの達成感や、自己表現をする喜びのようなものも得られたのではないかと考える。前期で扱ったテーマ以外のことについても作りたいと、後期に意欲的なリピーターとなった学習者も複数名いた。会話が初級で、開始当初「難しくて私にはできないかも」と言っていたある中国人学習者は、途中から、「とても勉強になる」と熱心に取り組み、簡単な表現ではあるが、魂のこもった美しい作品を仕上げることができた。アンケートの教室満足度も大変高かった。

(3) 今後の改善点について

・鼎教室では、地域の様々なこと、もの、ひとが生きた良い教材になりうるということがわかってきた。それらをどう魅力的に活用していくか、アンテナを高くしてテーマの選定などをしていく必要があるだろう。教室運営、特に授業の進め方については、今年度はファシリテーターの育成がほとんどできずに終わってしまった。時間と労力がかかるが、教室の担い手を育てることは重要であり、今後取り組んでいかなければならない分野である。

・DSTの手法をとりいれたフォトムービー制作は、日本語学習にとって有効である。今回なんとかカタチにはなり、良い作品が完成したが、まだまだ支援者の中には、支援の技術的なものやコミュニケーションの上で戸惑いがある場合も多かったように感じられた。支援者にも学習者にも負担に感じさせないように、支援者会議などの充実を図りたい。

＜取組2＞

取組2	取組の名称		日本語講座「多文化な若者たちと考えるわたしの未来・飯田の未来」									
	取組の目標		当地域で暮らす多文化な若者が、地域社会や同胞以外の若者とつながり、自分の将来、飯田の未来を夢を持って語り合える場をつくる。集まったメンバーの中からリーダーの発掘・育成と、グループとしての活動の組織化を模索する。									
	取組の内容		・日本人を含む多文化なルーツを持つ若者（高校生に相当する年齢～20代後半）が集まる機会をつくり、日本語学習を通して語り合う場とする。通年で10回程度の講座開催とする。 ・学習テーマは、専門家の助言もいただきながら最初の数回分を設定するが、途中からは講座参加者からの意見を取り込みながら、参加者同士で話し合い決定していく。必要に応じて地域で活躍している方、若者が興味がある分野の方等にゲスト講師として講座に参加してもらう。 ・高等教育機関、地元の各高等学校、外国人が多く集う教会などと連携協力して、参加者募集をする。 ・対話型学習やビデオ作品制作などを通じた日本語学習をする。指導は日本語支援者有志があたる。									
		空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	取組による体制整備		若者を対象とした新しい取り組みとして試験的に行う。日本人を含む多文化な若者が集う場所を創設し、将来グループ活動的なものができるような連携先を発掘する。									
	取組による日本語能力の向上		・日常生活に必要な場面での実践的な日本語会話力の習得。 ・地域社会で知っておかなければならない生活情報の獲得。									
	参加対象者		16歳～30歳くらいまでの外国にルーツを持つ若者及び日本人の若者				参加者数 (内 外国人数)		39人 (27人) ※のべではない登録数			
	広報及び募集方法		チラシ配布(外国人集住地区、企業、市内地区公民館・日本語教室・市内高校 等)、市広報・新聞・地方情報誌への掲載、インターネット(市役所HP、Facebook)、学習者による口コミ									
	開催時間数		総時間 18.5 時間(空白地域 時間)									
	主な連携・協働先		市内公民館、市役所、感環自然村									
	開催場所		飯田市公民館、飯田市役所、風の学舎、Bar Libro、切石体育館									
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
			8	0	0	0	12	0	0	5		
			アメリカ(2人)、日本(12人)									
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名			
1	平成28年7月18日 (月) 10:30～15:00	4.5時間 日本語指導 時間は3時間 間	風の学舎	18	わいわいYOUTH ミートでミート！ ミートゥ！（BBQ大会）	若者から出た「バーベキューやりたい」の意見をもとに、今後の講座参加者を募る目的で実施。準備段階から役割分担をして参加者全員で楽しめた。バーベキューを食べたあと、仕事の担当グループ毎にCMをつくるワークショップをし、交流を深めた。		①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④山崎ルミ ⑤殿倉健一* *謝金辞退			
2	平成28年9月19日 (日) 19:00～21:00	2時間	飯田市公民館	5	わいわいYOUTH BBO大会の振り返りと今後の講座について	7月のバーベキュー大会そのものは盛り上がったが、それが若者が集う場所づくりまでには至らなかった。その後の進め方を検討するための講座を実施した。映画とスポーツの2つのイベント開催を決定。		①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④山崎ルミ			
3	平成28年10月23日 (日) 19:00～21:00	2時間	飯田市公民館	5	わいわいYOUTH 多文化な若者企画会議	引き続き若者にも加わってもらい、映画とスポーツのイベントについて話し合う講座を実施。好きな映画やスポーツ、イベントの進行等について出した。		①大澤志那子	①後藤信義 ②下岡恭子 ③服部珠予 ④山崎ルミ			
4	平成28年11月6日 (日) 17:00～21:00	4時間 日本語指導 時間は2時間 間	Bar Libro	9	わいわいYOUTH 多文化なシネマナイト	以前はバーだったスペースを会場に開催。映画鑑賞のあと、軽食をとりながら、映画の感想や普段感じていること、今ががんばっていることなどについておしゃべり。様々な国籍の若者同士、会話がはずんだ。		①大澤志那子	①下岡恭子 ②服部珠予 ③山崎ルミ			

5	平成28年11月27日 (日) 18:00～21:00	3時間 日本語指導 時間は2時間	切石体育館	12	わいわいYOUTH 多文化なスポーツ大会	切石体育館を会場に、バドミントン、バスケットボール、ソフトバレーボールなどのスポーツに汗を流した。いつも何か運動をしている人は少なく、継続的にやりたい声もあがった。終了後の食事に参加した若者たちは、SNSでグループを作るなどの動きがあった。	①大澤志那子	①下岡恭子 ②服部珠予 ③山崎ルミ
6	平成29年2月19日 (日) 16:00～19:00	3時間 日本語指導 時間は2時間	東野公民館	8	わいわいYOUTH カレー作り・みんなで夢を語ってみよう	第5回のスポーツの後、SNSのグループを作った若者たちが、また何かやりたいねと企画したカレー＆カラオケの会。夕方から東野公民館に集まりカレー作り。食べながら、若者の将来の夢ややりたいことなどを話した後、希望者は二次会のカラオケへ。	①大澤志那子	①後藤信義 ②服部珠予 ③山崎ルミ

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 平成28年11月6日】

「多文化なシネマナイト」ということで、映画をみんなで鑑賞する会。以前はバーだった貸しスペースを借りて実施。参加者も支援者も、都合のつくひとは早めに集合し、軽食や飲み物の準備を全員で行った。初対面も多かったが、一緒に作業をするうち、打ち解けた雰囲気になった。参加者がおおよそ集まった夕方6時半ころから映画を鑑賞した。鑑賞後は、注文してあったピザ等の軽食を食べながら、全員でおしゃべり。最初は話すテーマを提供してみたが、外国に由来を持つ若者同士、自然と普段の言語生活のことや、好きなアーティストの話などで盛り上がりを見せた。若者の参加はフィリピン出身の人が多く目ではあったが、父親がブラジル人の子、中国出身、アメリカ出身の人もいて、お互いのことを自然に質問しあったりする姿が見られた。まだまだ話したい様子ではあったが、夜9時近くになり終了となった。できる人全員で協力して片付けまで行った。



○取組事例②

【第6回 平成29年2月19日】

第5回のスポーツの後、SNSのグループを作った若者たちが、また何かやりたいねと企画したカレー＆カラオケの会。まず夕方から東野公民館に集まりカレー作り。集まった人数を見て、買出しグループと準備グループに分かれた。準備グループはお米を研いだりして準備をし、買出しグループが到着したところで調理開始。自己紹介をしたあと、料理が得意と言うフィリピン出身の男の子が中心になってカレー作り。数人はサラダ係になりサラダを作った。野菜を切ったり炒めたり、みんなで協力して作業が進んだ。7時近くになり料理ができあがり、みんなでいただいた。あめ色になるまで炒めたたまねぎのおかげか、大変美味しいカレーができ、大好評。食べながら、若者の将来の夢ややりたいことなどを話した。GA(キャビンアテンダント)になりたいという子、ジムに通って筋肉を付けたいという子、世界を旅したいという子など、それぞれに夢があるようだった。また、5年後にはどこでなにをしていると思うか、という質問には、自分の家を建てたい、アメリカで生活する、いい人を見つけて結婚、などと答えていた。現在の生活を悲観することなく、夢を語れる若者が多いことには安心感を覚えた。食事の後片付けを全員で行ってから、次のカラオケ会場へ移動。カラオケを2時間ほど楽しんで解散となった。



(2) 目標の達成状況・成果

初めての試みとしての、多文化な若者たち対象の講座。継続参加には至らなかったが、所要所で気になっていた若者たちの参加が得られた。その中でも、数人のリーダーシップのある若者の発掘はできたと感じる。何回かのイベントを通して、「楽しかった」「またやりたい」などの感想も聞かれ、何かしらの刺激や仲間を求めているであろう若者たちの現状をうかがうことができた。ここを足がかりにして、今後なんらかのカタチで発展させていきたいだろう。

(3) 今後の改善点について

若者たちを何人か企画段階から取り込んで講座やイベントを企画してみたが、彼らの意見を取り入れる程度に留まり、若者たち自身が主体的に取り組むようなところまでできていなかったことは、今後の課題である。普段考えていること、悩みなどを素直に出し合えるような仕掛けや雰囲気作りについて、今一度研究する必要があるだろう。また今回は、「若者、概ね15歳から30歳くらい」としたところ、やはり高校生と20代後半の社会人では同じ若者とはいえない違いが大きすぎ、まとまらないことも判明した。もう少し細かく年齢をわけ、対象年齢層をしぼるなどが必要になってくる。そして、日本人の若者でも中心的人物の存在があったほうが、より豊かな講座へと発展していくことにつながるだろう。そのあたりの仕掛けが今後開発されていくと、地域の未来を考える上で有効になると思われる。

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 28年9月11日】

「飯田に暮らして」をテーマに制作したフォトムービー作品の上映会。開始1時間程前に事務局と支援者は準備のため集合。会場設営等をはじめた。受付開始時間より前から参加者が集合し始め、持ち寄りのお菓子などもたくさん持ち込まれて、多少バタバタとした準備となった。主催の公民館副館長より挨拶をいただき開会。まずフォトムービー作品を上映した。全部の上映が終了後、参加者は座っているテーブルのグループで感想などを話すグループトークを行い、グループの代表者から話した内容などを簡単に紹介していただいた。作品をつくった学習者がグループに一人いるよう入ってもらい、トークの進行は日本語支援者のみなさんにご協力いただいた。一グループの人数が多く、自己紹介程度で終わってしまったところもあったが、それぞれ活発なトークが繰り広げられたようだった。その後、学習者の一人が作品の中で紹介したダンス「ズンバ」を体験。テーブルを会場の端に寄せ、ブラジル人ズンバ講師の指導で汗を流した。ズンバ体験中にスタッフがお茶などの準備をし、ズンバ終了後、各自好きなお菓子やお茶をセルフサービスで調達し、再びグループ毎に着席。お茶と各国の手作りお菓子を楽しみながらテーマを決めず歓談していただいた。その後、会場全体が参加しての〇×クイズ大会。フォトムービーの内容からのクイズ、飯田に関連するクイズ、国際的なテーマのクイズ等10問ほどの〇×クイズに挑戦した。クイズで盛り上がったところで、上映会終了。片付けは参加者もお手伝いいただける方が多かった。学習者が家族や職場の同僚などを連れてきてくださったり、新聞やチラシを見て来てくださった一般の方など総勢44人の参加者となり、盛会に終わった。



○取組事例②

【第2回 29年2月12日】

わいわいサロンⅡ 松尾教室後期で制作したフォトムービー「わたしが好きな〇〇」の上映と、今年度わいわいサロンや他の日本語教室で学習したことの成果発表会。開始90分前に、会場の飯田市役所会議室へ日本語支援者を中心としたスタッフが集合し、会場設営などの準備をした。各教室の活動内容がわかる展示物などの飾りつけも行った。会場が広かったため、フォトムービーの上映鑑賞席と、交流会場を分けて設営することができた。学習者やその家族、一般の参加者36人が集まり、午後1時に開会。まず会場前方のスクリーン前のいす席に座って、フォトムービー作品の上映。1作品の上映終了ごとに、制作した学習者に前に出してもらい、制作の感想をインタビューしたり、会場から学習者へ質問などしてもらった。日本語学習の大変さやおもしろさ、作品の中で語られた内容に対する想いなどを会場全体で共有でき、良い時間となった。その後参加者は、好きな季節ごとに5つのグループに分かれ、お茶とお菓子を取って席に着き、グループトーク。日本語支援者がグループトークの進行をし、自己紹介のあとは、フォトムービーのテーマ同様「わたしが好きな〇〇」について話し合った。話したことを視覚化するため、付箋やキーワードを書き、ポスター紙に貼るようにした。フリートークのあと、各グループから一人ずつ、そのグループで話したことや感想をまとめて話してもらい、全体で共有した。各グループでそれぞれ違う個性的なグループトークが展開されたようだった。持ち寄りのお菓子も、手作りの各国料理が並び、大好評であった。最後に参加者全員参加で〇×クイズ大会。一般参加者の方々にも片付けを手伝ってくださる方が多く、すばやく片付けをして解散となった。



(2) 目標の達成状況・成果

・1回目は44人、2回目は36人の参加者を得た。その中には、学習者の知り合いだけでなく、日本語を勉強したい外国人、地域の多文化共生事業に興味をもった高校生などの参加もあり、日本語教室の存在やその中味を知っていただけた機会となった。アンケートでは「日本に来て本当に努力されていることが素晴らしい」「今回のような機会が増えることで国際交流の幅が広がっていきます。‘地味’なわいわいサロンを大切にしていきたいです」「日本人の感覚では考えられないことも出されて、私自身も反省しました」といった感想が寄せられ、参加した日本人の心にうったえる発表が出来たのではないかと。

・2回目はわいわいサロン以外の教室にも事前に声かけをし、展示物等を出していただくなど、協力体制を築くことができた。今後も大切にしていきたいところである。

・学習成果を発表するということは、学習者にとっては少し恥ずかしい面もあるかもしれないが、それ以上に達成感や今後のやる気につながったのではないかと考える。2回目の成果発表会のフォトムービー上映後インタビューでは、みなさん大変々とした日本語での受け答えができていた。

(3) 今後の改善点について

今回、成果を発表するという点では、わいわいサロンの学習者のみに留まった。他の教室でも成果というものは当然あげられているはずであるので、そのあたりを共有できる機会となればいいかもしれない。形として示せるものがなければ、日本語スピーチ大会などを取り入れての発表会にしてはどうか。今後さらに他教室との連携を深めていく中で模索していきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

平成27年度までの日本語教室の活動から見えてきた地域の実情と課題、ニーズなどに寄り添った日本語教室を開催し、外国人の自立促進と地域課題解消への一助とする。これまで築いてきた関係機関等との連携を継続、更に強化するとともに、一般市民との関わりをこれまでより多く持てるような内容に組み立てる。教室に参加する学習者が、実践的な日本語を学ぶことはもちろん、地域住民と一緒にって日本文化や地域のことを学ぶことで、住民のひとりとしての自覚を持ち、社会へ踏み出していく足がかりとする。地域住民主体の“学習と交流の場”としての公民館を拠点にし、教室の様子や成果等を随時SNS等を利用して広く一般に発信することで、地域住民と外国人が共に主体となる地域日本語教育推進のための体制整備を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

【取組1】
わいわいサロンⅡ教室での学習や体験を通し、学習者は日常生活に必要な日本語力の向上を図ることが出来た。教室終了後に学習者へのアンケートを実施したところ、日本語教室にきた理由を問う項目の回答として、最も多かったのは「日本や飯田の文化が学べるから」、ついで「日本人や他の外国人に会えるから」であった。このことから日本語教室が、ただ日本語を学ぶ場所ではなく、他の外国人や日本語支援者を中心とした地域の日本人との接点としての役割を果たし、共に学ぶ大切な場所となっていることが分かった。日本語支援者は、自己実現の場や機会を得ることができた。継続して参加してくれること、各教室後のミーティング時にも、前向きな発言が多かった。それぞれが回を重ねるごとにブラッシュアップができていていると感じた。

【取組2】
多文化な若者たちの実態を把握することができた。当初は想定していたように講座を進めることが出来ず暗中模索の状態が続いたが、何回かの講座を通して若者と話していくうちに、多文化な背景についてさほど気にすることはなく、夢を持って忙しく働いている人が多いことが見えてきた。日本語支援者は講座を通して、若者のリアルな現状に触れ、講座を実施する際に対象者をどう設定したらよいかや、素直に自分を出し合えるような雰囲気作りの必要性を感じるなど、支援者としてスキルアップせねばという意識を持つことが出来た。

【取組3】学習成果発表会では、日本語教室の学習内容や外国人住民実情を広く知ってもらうことができた。特に、新聞などで記事になったことの効果は大きく、これまで教室に関わったことのない地域の方から励ましの言葉をいただいた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域の産業に密着したテーマを設定し、そこで活躍する方に教室に来てもらったり、現場へ見学等に行くなどして、参加者がより地域に目を向けるきっかけをつくることができた。また、協力いただいた地域の方々には、日本語を一生懸命学ぶ学習者の姿を見てもらい、地域で暮らす外国人の存在を知ってもらうことができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

フェイスブック、チラシ設置、飯田市ホームページ、新聞等で事業の周知、広報を行った。フェイスブックでは、教室の様子を随時発信しており、ページを見て教室に参加して下さる学習者、ボランティア希望者も出ている。また、これまでに講師として教室に関わって下さった方もページのフォローをしてくれており、講座後も教室の様子を見てくれている。チラシについては、各地区公民館、組合回覧、市役所、ハローワーク、図書館等に設置した。効果については、数字では現れていないが、こうした取組があることを設置させていただいている施設の方にも周知すべく、今後も行いたい。

事業成果の地域への発信としては、学習成果発表会を外国人住民を含む市民を対象として実施した。この発表会の取材をきっかけに、新聞記者の方が学習者（ブラジル人女性）が開催しているズンバ教室の取材に行き、新聞への掲載に至った。こうした外国出身者の活躍が取り上げられたことは、同胞にとっても大変嬉しいことであつたようで、学習者のモチベーションにも良い影響を与えた。

(6) 改善点、今後の課題について

外国人が生活していくうえで、地域とつながることがとても重要である。日本語教室のテーマなどソフトな部分はだいぶノウハウを蓄積できてきたが、交通手段がなくて教室に通えない、交代勤務で時間が合わないなどのハード面の細かい整備がさらに進むと、地域に定住する方々も増えていくのではないかな。

今年度、試験的に取り組んだ多文化な若者を対象とした講座は、若者が集える場や組織をカタチにするには至らなかった。しかし彼らは、地域にとっては貴重な人財であり、今回把握できた実態をもとに今後も何らかの形で見守り、サポートしていく必要がある。

【取組1】日本語教室「わいわいサロンⅡ」ちらし

日本語教室「わがやまサロン」

	日時	内容
1	6月20日(月) 19:00~21:00	★お菓子トーク 自分の家のお菓子についてみんなでお話そう！
2	6月27日(月) 19:00~21:00	★和菓子と豆知識 和菓子って何の知っていますか？あんなで和菓子について知れたらと、 和菓(和菓)の体験をします。
3	7月4日(月) 19:00~21:00 【講座第2回】	★和菓子を作ってみよう 和菓子職人に習って作らしてもらって、和菓子作りが楽しめます！ ■お豆 和菓子300円程度です。
4	7月11日(月) 19:00~21:00	★和菓子作りの体験 23日に、お菓子工場見学に行きます。行き方や地図をみんなでお話する予定です、 みんなで楽しみにして。和菓子作りの体験を立てください。
5	7月23日(土) 9:30~14:00 【おでかけ】	★和菓子作り「お菓子工場へいってみよう」 おいしいお菓子をどうやって作られているのしょうか？ みんなで楽しい時間を過ごしましょう！ ■参加費 (交通費、お菓子代など) が別途です。
6	7月25日(月) 19:00~21:00	★お菓子のデザイン オリジナルのお菓子を作ってみよう。

お菓子
和菓子



【場所】
〒100-0001 東京都千代田区千代田
国会议場 TEL0265-22-1284



申込書

名前 _____ TEL _____

住所 _____ 郵便 _____

	日時	内容
1	10月17日(月) 19:00-21:00	宣言の読み 初級オリエンテーション・新卒の求職について等々!
2	10月24日(月) 19:00-21:00	宣言の読み 求職に活用!
3	10月31日(月) 19:00-21:00	宣言の読み 履歴書でメニューを覚えてみよう!
4	11月7日(日) 10:00-15:00	模擬 「面接練習」 「面接」に受けてみよう! 面接官が質問してきたら正しく回答
5	11月14日(日) 10:00-21:00	宣言の読み 「面接練習」 「面接」に受けてみよう! 面接官が質問してきたら正しく回答
6	11月21日(日) 19:00-21:00	模擬の演 日本語の筆記を読んでみよう!
7	11月28日(日) 19:00-21:00	宣言の読み 面接に活用!

Coming soon!
留学生会 12 月開校(予定)



～もしまの語の授業あれこれ～
いざという時、自分と大切な人を
どう守りますか?

日本学生支援機構(JASSO) 奨学金
試験会場
〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-1-1
JASSO 東京国際センター
TEL: 03-3283-1111 FAX: 03-3283-1112 E-mail: info@jassostokyo.ac.jp

★申込書★

申し込み先 徳島市公共図書館 徳島市西宮町 150 担当: 橋野
電話 22-1130 FAX 22-1022 Eメール: info@city.library.tokushima.lg.jp

募集 応募 印刷

住所 〒770-0001 徳島県徳島市東区南町 1-1-1 出庫

～多文化な若者と考えるわたしの未来・飯田の未来～

多文化な シネマナイト

11月6日(日)17時～21時

秋の夜長をスイーツと映画で楽しんでは。ほっといながらお話ししたりしよしょう！
様々なスポーツを通じた世界の若者と交流するのにも最適なイベント！

○会場：ナチュラルキッチン TESS 2nd floor (Bar Library) ※会場は無料
○観覧：1000円ゲート・ドリンク・軽食あり
○対象：15歳～30歳の日本人や外国につながる若者

多文化な スポーツ大会

11月27日(日)18時～21時

秋の夜長をスポーツで楽しもう！ダンス・ヨガ・バレエなど、話題\$ 10月23日
の企画で決めます。選んだあとと発表は1週間前に行われます！

○会場：福祉体育館 ※会場は無料
○観覧：2組に1組は入場料が必要です。
○対象：15歳～30歳の日本人や外国につながる若者

企画会議 10月23日(日)19時～21時 飯田市公民館にて 楽しい企画・やわらかいスポーツなどのアイデアを出し合います。

申し込み 飯田市公民館 もしくは 日本語教室の先生 (大澤さん・桐原さん)
TEL 0265-22-1132 FAX 0265-22-1022 E-mail iccc01gkr1@city.ida.nagano.jp 飯田健康課 026-6-938-4787 (健康課)
～Facebook 日本語教室わいわいサロン Japanese Class "Waiwai Salon"～

【取組3】学習成果発表会

平成28年度文化庁「生活者としての外国人」地域日本語教育実践プログラム (Ⅱ)

日本語学習者のご支援、習熟、地域の日本人、などでも開催できます。
様々な習熟を持つ外国人の皆さんがどのような思いで日本語を学んでいるのか、発表してください。

日本語教室わいわいサロンⅡ ～フットムービー作品を作ろう～

作品上映会 飯田に暮らして…

日本へ来て、飯田に暮らして、色々なことがありました。
そしてこれからは、ここで生活していきます。
外国にルーツを持つ日本人や外国人、それぞれが思いを込めて作った、フットムービー作品を発表します。
それぞれの思いを込めて作った、フットムービー作品を発表します。
皆さんの作品を見ることで、
飯田の多文化について一層に知っていきましょう。

2016年9月11日(日曜日)
14:00-16:00
会場 松尾公民館

14:00～14:30 開会と挨拶
・習熟、フットムービー制作の発表
14:30～16:00 フットムービー上映会
お話しをしながら、交流し合おう！
フットムービーの制作や発表の発表会です。
参加費：発表費の補助は100円
お話しをしながら、交流し合おう！
申し込み：飯田市公民館

平成28年度文化庁「生活者としての外国人」地域日本語教育実践プログラム (Ⅱ)

だれでも参加できます。
日本語を習熟している人たちが、どんな思いで暮らしているかを発表。
飯田の多文化について一層に知っていきましょう。

日本語教室わいわいサロンⅡ 学習成果発表会

～にほんご たのしいに～

日本へ来て、飯田に暮らして、色々なことがありました。
そしてこれからは、ここで生活していきます。
外国にルーツを持つ日本人や外国人、それぞれが思いを込めて作った、フットムービー作品を発表します。
皆さんの作品を見ることで、
飯田の多文化について一層に知っていきましょう。

2017年2月12日(日曜日)
13:00-15:30
会場 飯田市役所C棟3階
TEL 0265-22-1132 FAX 0265-22-1022 E-mail iccc01gkr1@city.ida.nagano.jp

13:00～14:45 学習成果発表会
・習熟、フットムービー制作の発表
14:45～15:30 フットムービー上映会
お話しをしながら、交流し合おう！
フットムービーの制作や発表の発表会です。
参加費：発表費の補助は100円
お話しをしながら、交流し合おう！
申し込み：飯田市公民館

【取組1】日本語教室「わいわいサロンⅡ」アンケート

日本語教室「わいわいサロンⅡ」参加者アンケート 前期後期総合

(1) どうして日本語教室にきましたか。2つまで、○を付けてください。

- ①日本人や他の外国人に会えるから
②日本語を勉強したいから
③日本や日本の文化が学べるから

10
8
11

- ④教室に誘われたから
⑤その他

2
0

(3) 日本語教室の様子を書いてください。

・普段は会えない相手の方に来てよかったです。自分では行けないお菓子工場を見学することができてうれしかったです。

・とてもよかったです。

・TAMOSHI

・お話ししながら日本語を覚えられるからです。

・指図してくれました日本人たちは、親切で丁寧に教えてくれました。色々な人と話ができたので、とてもよかったです。

・3回しか来れなかったですが、みなさんとお話しができて楽しかったです。

・日本語の勉強ができました。

・日本語教室の人に感謝している。日本の文化交流と同時に色々な知識を学べた。

・リラックスできた。みなさん、支援者の人たちが、ありがとう。

・とてもよかったので、もっとやりたいです。(ますおさん)

・楽しかった。言葉勉強します。(深草さん)

・最近でした。水引と書道勉強して、やりました。(フアウゼさん)

・異国文化に生きているのですが、分からないことが多かったりあります。日本語教室に参加すると、日本語や日本の文化を学べるので、もっと参加したいです。(リリー)

・このようなテーマの授業は受けたことがなかったので、面白かった。日本の習慣の考えを知ることは重要だから参加した。(ルジアさん)

(4) 日本語教室で話したいテーマはありますか。

- ①日本や日本の文化
②日本の生活など日本の制度
③子どものこと

13
5
4

- ④ひらがな、漢字
⑤みんなで勉強する、行く
⑥お互いの国のこと
⑦その他

5
5
5
0

(5) (4)でその話を話した人は、どんなことがいいですか。

・日本と住んでいる時、生活のこと。

・他の国のことについても少し。

平成28年度文化庁日本語教室「わいわいサロンⅡ」松尾・前期 受講者の感想

名前	①フォトムービーをやった楽しかったこと	②フォトムービーで新しくわかったこと	③フォトムービーで一番楽しかったこと	④フォトムービーを見たい人は誰ですか	⑤フォトムービーをまた作りたいか
ブラジル出身者	他の人と日本語で話すことが楽しかった。仕事をしている時は、あまりしゃべれないので、分からないことはたくさんあるが、勉強になった。	自分の気持ちを理解した時、どんな幸せな気分になる気がした。気持ちが上がる感じ。	録音で話す事。マイク。	ズンバの友達。ブラジルにいたり家族や友達。	作りたい。言葉の勉強になるから。みんなと会えるのが楽しいから。文化について色々作ってみたい。
ブラジル出身者	全部楽しかった。面白かったです。	色々な言葉が分かりました。「リーマンショック」や「共有」です。	発音が難しかったです。特に「姉の家族」。	色々な方に見てもらいたいです。	作りたいです。でもまだわかりません。発音の練習になるので面白いです。
ブラジル出身者	録音するのが楽しかっただけに、できあがった時は楽しかったです。	日本の文化が少しずつわかりました。前回は、紅葉を見に行ったところを取り上げました。	日本語を使って文章を書くのには苦労しました。	ブラジルと日本の友達に見てもらいたいです。	作りたい。理由はもっと覚えたいからです。日本語の文字を使って文章を書くようになります。
ブラジル出身者	昔のことを思い出しながら文章を考えること。	話すことが多すぎて、文章を繋げることが難しかった。	録音すること。	家族、友達。	今回初めてでしたが、別のタイトルで発表したい。
中国出身者	全部楽しかった。初めての経験で面白く、とても勉強になった。特に勉強になったのは、日本語を書くこと。日常生活では、話すことはよくするが、文で書くことはあまりしないので、こんな長い文は初めて書いた。終わった今、楽しい気持ちでいっぱい。	フォトムービーが本当に作れるんだと感激した。頑張っていきたいと思います。の表現を初めて知った。5年を振り返り、たくさん友達ができたなあ...。自分が長い文章を書けるんだとわかった。(支援者のおかげで)	「に」「が」などの助詞が難しかった。自分の気持ちを言いたいけどなかなか上手に言えなかった。気持ちは分かるのに言葉が...	主人と友達と先生。先生にはたくさん教わったので見て欲しい。私は毎週日本語教室に行っていて、本当に勉強になっていることを伝えたい。最初は主人に教えてもらっていたので、さっきも「緊張すると思うけど頑張ろう」とメールがきた。応援してもらっている。幸せな気持ちを伝えたい。	勉強になるし、楽しいので作りたい。子どものことや旅行のこと。

【取組3】学習成果発表会アンケート

2016年9月11日

2016年9月11日

日本語教室わいわいサロンⅡ 作品上映会アンケート

(1) 感想について教えてください。

◆その理由を教えてください。

・どの作品も感動しました。日本人の感性では考えられないことも出されて、私自身も反省しました。

あなたは：1.日本人 ☒ 1
2.外国人 ☒ 7

(2) 本日の上級会について教えてください。

①何で上級会のことを知りましたか。

- 1.チラシ ☒ 8
2.日本語教室 ☒ 8
3.公民館 ☒ 8
4.中日新聞 ☒ 8
5.鹿沼市新聞 ☒ 8
6.週刊いいだ ☒ 11
7.ケーブルTV ☒ 8
8.友達 ☒ 2
9.Facebook ☒ 2
10.その他 ☒ 2 (熊山さん、氏原さん、湯澤、妻)

②参加の理由を教えてください。

- 1.日本語教室に興味があったから ☒ 8
2.上級会の内容に興味があったから ☒ 7
3.国際交流がしたいから ☒ 4
4.家族が日本語を勉強しているから ☒ 2
5.なんとなく参加した ☒ 2
6.友達に誘われて参加した ☒ 2
7.本人・支援者 ☒ 8
8.その他 ☒ 8

③参加しての感想を聞かせてください。

- 1.大変良かった ☒ 6
2.良かった ☒ 8
3.あまり良くなかった ☒ 8
4.悪かった ☒ 8

- ・なんと言っても、自ら書いてきたような作品に仕上がっていたから。
- ・外国人一人一人の悩みと成功したことが良かったと思います。
- ・もっと勉強したいと思います。
- ・みんなの興味が湧いてきて、ここまでできてがんばってきました。
- ・すばらしい作品を作ってくれて、すごく感動しました。
- ・みなさんい日本語が上手で分かりやすく良かったです。
- ・短時間でパランスよく内容だった。フォトムービーはどの方も良かった。
- ・英語だけでは不十分ということを実感した。皆さん協力して日本語を勉強されている姿が印象的でした。

(4) 特に印象に残っている作品についてや日本語教室への要望、メッセージなど自由に書きください。

- ・上級は次も続けてください。大勢の参加があり、良い環境で。
- ・新しいソッドが発表されていることが分かって、参加してよかった。子どもが成長するに促して、外国出身の娘にとってすごく色々な面で日本語上達の環境に励んでいる様子が知れた。
- ・とても良かったです。
- ・ひとりひとり頑張りました。みちを見せてくれましたので、ありがとうございます。
- ・6人の発表は素晴らしい。日本に来て本当に協力されていることが素晴らしい。
- ・まだ参加したいです。

2017年2月12日

日本語教室わいわいサロンII 学習成果発表会アンケート

(1) あなたについて教えてください。

あなたは：1.日本人 ☒ 8
2.外国人 ☒ 4

(2) 本日の上級会について教えてください。※複数回答

①何で上級会のことを知りましたか。

- 1.チラシ ☒ 11
2.日本語教室 ☒ 2
3.公民館 ☒ 2
4.鹿沼市新聞 ☒ 11
5.週刊いいだ ☒ 8
6.友達 ☒ 2
7.Facebook ☒ 11
8.鹿沼市ホームページ ☒ 11
9.その他 ☒ 11 (関係者の皆様が一生懸命やっているから)

②参加の理由を教えてください。

- 1.日本語教室に興味があったから ☒ 4
2.学習成果発表会の内容に興味があったから ☒ 4
3.国際交流がしたいから ☒ 4
4.家族が日本語を勉強しているから ☒ 11
5.なんとなく参加した ☒ 2
6.友達に誘われて参加した ☒ 4
7.本人・支援者 ☒ 2
8.その他 ☒ 8

③参加しての感想を聞かせてください。

- 1.大変良かった ☒ 7
2.良かった ☒ 2
3.あまり良くなかった ☒ 8
4.悪かった ☒ 8

◆その理由を教えてください。

- ・色々なお話が聞けて楽しかったです。(高校生)
- ・作品が素晴らしい。家族や友人が観る機会。
- ・国際交流が好きなので色々な国の人の話を聞いたり、実際に話ができたりして楽しかったです。(高校生)

(4) 特に印象に残っている作品についてや日本語教室への要望、メッセージなど自由に書きください。

- ・今回のような機会が増えることで、国際交流の輪が広がっていきます。地味なわいわいサロンを大切にしていきたいです。(幸野公民館山口館長)
- ・今後も続けてもらいたい。ありがとうございました。
- ・けっこう旅行している外国人が多いのには驚きました。
- ・わたしの好きな運動。声の大きさ、語りが自然だった。